

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520399

研究課題名(和文)白居易を中心とする中唐「風流」文学の展開に関する研究

研究課題名(英文)A study of the evolution of mid Tang's Fengliu literature in China and Japan

研究代表者

諸田 龍美 (MOROTA, TATSUMI)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：20304701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：「長恨歌」と「中唐の美意識」とを基軸としながら、恋情文学という視点から、白居易文学の文学的特徴とその本質を明らかにした。主に下ケイ退居及び江州左遷時期の作品を分析した結果、「閑適の詩人」としての白居易の個性や本質が「漂泊からの帰郷」という点に求めうること、また、白居易の「廬山草堂への帰郷」は、陶淵明の「園田への帰郷」の本質的再現(ミーメーシス)として行われたことなどを解明した。

研究成果の概要(英文)：Chogonka and aesthetics in the Tang revealed that Bai ju-yi's literary features and its essence from the viewpoint of love letters as well as. That essence and personaliy as the poet Bai ju-yi can be obtained in terms of "return from bleaching to the original of myself".

研究分野：中国文学

キーワード：白居易 風流 琵琶行 閑適詩 陶淵明

1. 研究開始当初の背景

- (1) 長編詩「琵琶行」は、「長恨歌」と並び白居易の「感傷詩」の代表作であり、国文学に与えた影響も大きい。
研究開始当初は、白居易の「風流文学」を代表する作品として「琵琶行」を取り上げ、その本質を考察することを予定していた。
- (2) ところが、江州左遷期に製作された「琵琶行」は、同時期に成立を見た「閑適詩」と密接で本質的な内的関連性を有し、それを無視しては「琵琶行」の本質も把握できないことが明らかとなってきた。
- (3) そこで、「閑適詩」成立の背景をも同時に考察の対象とした。
- (4) 従来閑適詩の研究は、下定雅弘氏が概説しておられるように、八十年代半ば以降、活況を呈し、それに伴って白居易像も大きく転換した。下定氏の言葉を借りれば、平岡武夫・花房英樹らの「第一世代」が、思想や理念を重視したのに対し、「第二世代」(戦後世代)にとっての白居易は「そのような思想に生きる人ではなく、自己を愛し、自己の欲求を大切にしたい、自分たちの生き方に重なる生き方をした文人」である。
- (5) 戦後世代の価値観が閑適詩研究活況の背景にあるとする指摘も、本質的で肯綮に中るものであろう。研究代表者の「閑適詩」研究も、基本的にはその延長線上に位置するものである。

2. 研究の目的

- (1) 本研究の目的は、「風流文学」を主軸とする「感傷詩」、就中その代表作である「琵琶行」と、一見その対局に位置するかに見える「閑適詩」とが、同時期に成立していることに着目し、両者の根底に存在している、白居易文学の本質を明らかにすることにある。
- (2) あわせて、白居易の処世の理念として、自己に由るものと由らぬものとの峻別、という判断基準が、きわめて重要であったことを明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 白居易の「閑適詩」は、ジャンルそのものが白居易によって創出されてお

り、白居易文学の本質を考えるうえで、きわめて重要な分野である。従来、「感傷詩」と「閑適詩」は、それぞれ個別に研究されることが通常であった。

- (2) しかし、本研究では、両者を表裏一体の関係として捉え、その根底に共通する、より本質的な白居易の特質を明らかにする、という方法を採用した。

4. 研究成果

研究の結果、以下のような成果を得ることができた。

- (1) 「琵琶行」は、江州左遷期における「漂泊の慨嘆」を、落魄の妓女と共有する代表作であるが、その「漂泊の慨嘆」こそが、白居易を「故郷の探究」へと促し、廬山に草堂を築かせた内的な動因、必然性であった。
- (2) 白居易は左遷の地江州において「長安ばかりが故郷ではない」と詠じる詩を遺しているが、白居易にとって「真の故郷」とは、「身心安適の地」であり、左遷の地・江州においては、そのような意味での「故郷」が探し求められた。その結果として発見され、実現した「故郷」が、「廬山の草堂」にはかならない。
- (3) 「漂泊の慨嘆」と「精神的な故郷の探究」、言い換えれば、感傷詩の「琵琶行」と廬山草堂を歌う閑適詩群は、表裏一体の作品なのである。こうした見方は研究代表者独自の観点であり、「自誨」詩には、そうした白居易の精神構造が、典型的に示されている。
- (4) 閑適詩は、従来、適(快適・快樂)を希求する作品として解釈されてきた。研究代表者は、適の「かなう」意を重視して、白居易は「自己の本性や情性と、身体や身辺環境とが適うこと」を希求した詩人であったことを明らかにした。
- (5) さらに、従来指摘されてきた、適(身心の安適)を求める本性とは別に、白居易には直を貫く本性があり、白氏の間適世界は、それを断固保守せんとする決意性(直の本性)なくしては実現

され得なかった世界であったことを明らかにした。

(6) そうした閑適への決意を強く明示した代表作が「自誨」詩にほかならならず、当該詩は白居易文学の本質を考えるうえで、きわめて重要な作品である。

(7) 白居易の「己れ固有の本性を保守し貫く決意」は、本質的に陶淵明と共通する特質である。自らを「陶淵明の再来」と述べた白居易の宣言の背景には、そうした「本質的な一致」に対する、確信的な認識が存在していた。

(8) 「自ら誨ふ」詩は、陶淵明が「園田への帰郷」を宣言した「歸去来兮辞」から、単に語句や表現のレベルに止まらない、本質的な影響を受けて詠まれている。

(9) 白居易の「廬山草堂への帰郷」は、陶淵明の「園田の居への帰郷」の「本質的再現」(ミーメーシス)であり、後年の「洛陽閑居」は、江州でははたされなかった「真の帰郷」の実現であり、その結実であった。

(10) 白居易は、主にその閑適詩において、「心の平静」を得ることを目指したが、それは古代ギリシャにおいて、ストア派の哲人が目指した アタラクシアの獲得と、本質的に等しいものがある。そこに白居易文学の普遍的な重要性の一端を確認することができる。

(11) 「身心の平静」や「アタラクシア」を得るための方法論として、白居易と古代ギリシャの哲人はともに、自己に由るものと 由らぬものとの峻別、という基準を重視しており、その点においても、「普遍的本質的な共通性」を認めることができる。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6件)

諸田龍美、白楽天の「歸去来兮辞」「自ら誨ふ」詩と廬山草堂への帰郷、白居易研究年報、査読有、15巻、2015、8-49

諸田龍美、閑適への決意一下邨における心理的基盤の形成、白居易研究年報、査読有、14巻、2013、8-51

諸田龍美、白楽天のアタラクシア 自己に由るものと 由らぬものとの峻別、新しい漢字漢文教室、査読有、56巻、2013、36-47

諸田龍美、白居易「弟を祭る文」訳注、愛媛大学法文学部論集、査読無、34巻、2013、73-83

諸田龍美(陳才智原著)、中国『琵琶行』研究総覧・附『琵琶行』研究論著目録、白居易研究年報、査読有、13巻、2012、342-418

諸田龍美、「琵琶行」の存在論 漂泊の慨嘆から 故郷の探求へ、白居易研究年報、査読有、13巻、2012、9-39

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

諸田 龍美 (MOROTA TATSUMI)
愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：
2030470

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：